

まごころだより

2021年 5月号

桜の時期が終わりを告げ、新緑があちこちに見られるようになってきました。花見を楽しみにされていた高齢者を近くの公園に連れて行くくらいで、満足してもらえるほど応えられなかったことに大変申し訳なく思っています。思い返せば一年ほど前も同じ気持ちだったと思います。幸いなことに現在は私たちの施設では感染がありませんが、今では以前より感染拡大の可能性が大きくなってきたかと感じています。毎日、その危険性を念頭に対策に取り組んでいます。



できる限り予防する為に、マスクの着用、手指のアルコール消毒、椅子・テーブルの消毒や室内の換気を行うなど、今ではすっかり当たり前になっています。先日、本来コミュニケーションに支障があるかと備えてこなかったアクリル板を遅くなりましたが設置することにしました。



利用者には耳の遠い方が多い事もあり、上手く会話ができるか心配でした。アクリル板が言葉を聞き取りにくくする事は想像していましたし、透明であっても若干の圧迫感もあります。しかし最初は違和感があるようで、これは何なの?みたいな表情をされていましたが、設置の理由を説明したことで今では慣れもらつたように思います。中には理解しておられない方もおられますが繰り返し説明してその場はやり過ごしています。

先日、新型コロナワクチン予防接種の

知らせが役所から届いたがどうしたらいいのかわからないから教えて欲しいと利用者の方から聞かれました。通知書類を読んでいくと丁寧な説明がしてあって手順が理解できました。しかし、その丁寧な説明が高齢の方にはかえって難しくしているのではないかと思いました。予防接種をスムーズに受けてもらうために説明してあったのですが、手順の一つ一つに説明があって、読んでいくと訳が分からなくなられたのではないかと思います。

高齢者の方に同居の家族がおられたら安心だと思いますが、お一人住まいの方には誰か頼れる人が必要なのではないかと思います。どこかの施設を利用されていればその施設の人か担当のケアマネさんに教えて貰えると思いますが、そのような人を知らない高齢者は近所の方か地域の民生委員や町内会の役の方に教えてもらわないととても不安だと思います。分からぬままワクチン接種を受けられないことが無いように周りの人の支援と協力が必要だと改めて思いました。

